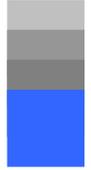


中小企業診断士試験



出る順診断士令和6年1次本試験解説



運営管理

れつ LEC 東京リーガルマインド



0 001412 250083

NL25008

FOCUSテキスト購入者特典（運営管理）

令和6年度1次試験総括

◆科目合格率は26.8%

令和6年度の本試験は中小企業診断協会が発表する統計資料によると、科目合格率が26.8%と全科目の中で2番目に高い数値であった。

なお、不備のある問題が1問あり、受験者全員が正答となったために、当該問題の訂正によって科目合格となった受験生も多いと考えられる。

◆全体の平均点は62点

LEC解答リサーチによれば全体の平均点は62点であり、直近5年の推移と比較しても高い水準である。ただし、60点以上の受験者の平均点が68点、60点未満の受験者の平均点が44点と二極化しており、運営管理を得点源にできた受験生も一定数存在する。

| | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
|------------------------|------|-------|-------|------|-------|
| 科目合格率 (協会公表) | 9.4% | 18.5% | 16.1% | 8.7% | 26.8% |
| 平均点 (LEC解答 リサーチ) | 61 | 62 | 59 | 54 | 62 |

一部対応の難しい問題も散見されたがFOCUSテキストの内容を理解し、合格点を確保したい内容であった。

◆正答率別の設問及び得点

LEC解答リサーチより、直近3年の正答率別の設問及び得点は以下の通りである。

令和3年度ではAランク、Bランク問題が73点を占めており、他の科目をカバーできる水準で得点源としたい内容であった。

令和4年度ではAランク、Bランク問題が65点を占めており、科目合格するためには、Aランク、Bランクを確実に正答する安定感が求められた。

令和5年度ではAランクが42点と他の年度と比較して少ない。Aランク、Bランク問題が62点を占めており、Bランク問題の対応で実力差が出た。

・令和4年度試験

| 正答率 | 設問数 | 得点 |
|---------------------|-----|-----|
| Aランク (正答率60%以上) | 27問 | 59点 |
| Bランク (正答率50~59%) | 3問 | 6点 |
| Cランク (正答率49%以下) | 14問 | 35点 |

正答率60%以上の設問が59点を占め、基本知識があれば十分科目合格できる

・令和5年度試験

| 正答率 | 設問数 | 得点 |
|---------------------|-----|-----|
| Aランク (正答率60%以上) | 19問 | 42点 |
| Bランク (正答率50~59%) | 9問 | 20点 |
| Cランク (正答率49%以下) | 16問 | 38点 |

正答率50%以上の設問は62点であった(Bランクの対応で実力差が出る内容であった)

・令和6年度試験

| 正答率 | 設問数 | 得点 |
|---------------------|-----|-----|
| Aランク (正答率60%以上) | 23問 | 53点 |
| Bランク (正答率50~59%) | 8問 | 18点 |
| Cランク (正答率49%以下) | 13問 | 29点 |

正答率50%以上の設問は71点であった(Bランクの対応で得点源にできる内容であった)

勝負を分けた設問

◆B・Cランク問題への対応

実際にB・Cランク問題はどのような問題であったのか。おそらく、基本的な対策だけでは対応が難しいのではと考えられると思う。

だが、その多くはFOCUSテキストでカバーしている基本論点であり、FOCUSテキストの内容を正しく暗記できていれば、問題なく選択肢を絞り込める内容である。

ここでは、そのB・Cランク問題の一部について紹介したい。

第4問

3工程直列型生産ラインにおけるライン編成を下記に示す。この編成に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。ただし、ライン生産は、最も効率が良い状態で運用されるものとする。

【ライン編成】

- ・ 第1工程は、作業時間4分の作業Aと、作業時間6分の作業Bで構成されている。
- ・ 第2工程は、作業時間3分の作業Cと、作業時間4分の作業Dで構成されている。
- ・ 第3工程は、作業時間2分の作業Eと、作業時間7分の作業Fで構成されている。

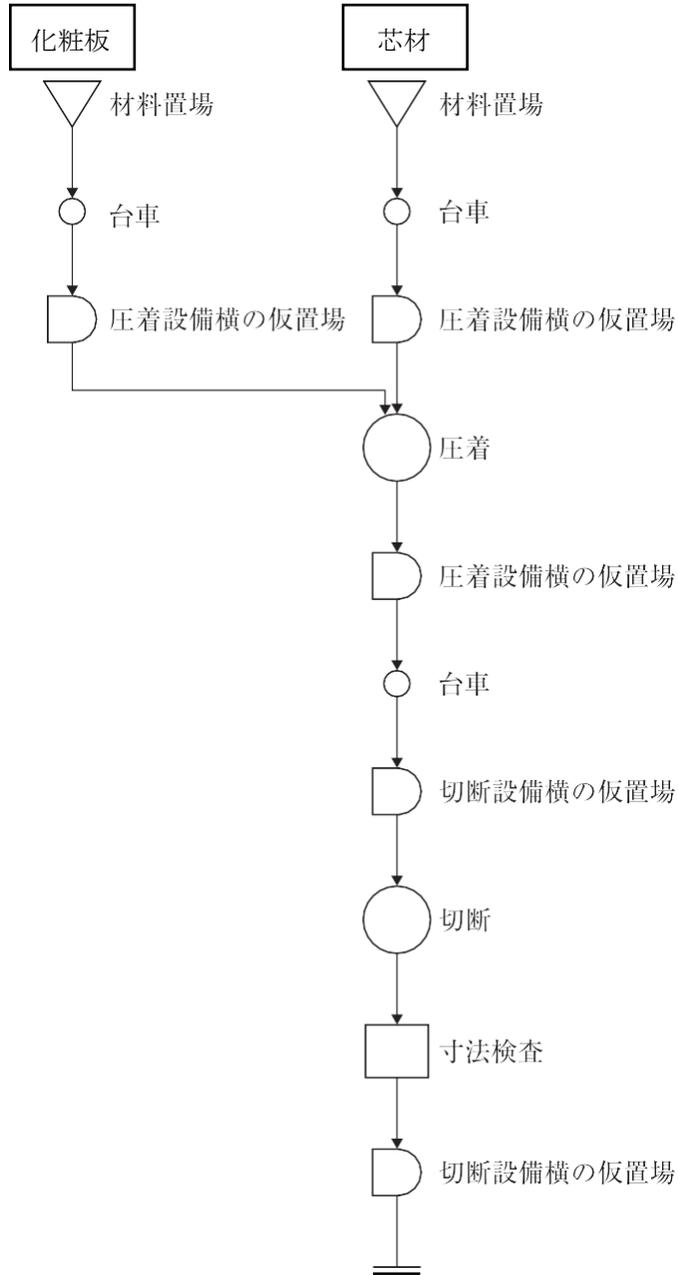
[解答群]

- ア サイクルタイムは、26分である。
- イ 作業Cの作業時間が2分長くなると、生産ラインのスループットは減少する。
- ウ 作業Fの作業時間が6分になると、サイクルタイムは短縮される。
- エ 生産ラインの編成効率は、80%である。
- オ 第1工程と第2工程で作業Aと作業Cが交換できれば、サイクルタイムは短縮される。

| | |
|-----|-------|
| 正答率 | 50.9% |
|-----|-------|

第 16 問

ある製品について工程分析を行った結果を下図に示す。この図から読み取ることができる改善施策として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

- ア 圧着設備横と切断設備横の仮置場に置く部品量を減らすために、圧着設備と切断設備を近づけるようにレイアウトを変更する。
- イ 圧着と切断の間に停滞する部品量を減らすために、切断設備の処理能力を上げる。
- ウ 材料置場から圧着設備までの運搬をなくすために、自動搬送車を導入する。
- エ 寸法検査後の停滞をなくすために、検査時間を短縮する。

正答率

40.3%

第31問

下表は、ある雑貨店の販売実績などを商品分類別にまとめたもので、売上高、粗利率、平均在庫額（売価ベース）が記載されている。この表に記載された商品分類の中で、最も交差比率が低い分類を下記の解答群から選べ。

| | 売上高 (万円) | 粗利率 (%) | 平均在庫額 (万円) |
|-------|-------------|------------|---------------|
| 商品分類1 | 180 | 30.0 | 30 |
| 商品分類2 | 100 | 25.0 | 50 |
| 商品分類3 | 240 | 10.0 | 24 |
| 商品分類4 | 80 | 40.0 | 10 |
| 商品分類5 | 400 | 20.0 | 40 |

〔解答群〕

- ア 商品分類1
- イ 商品分類2
- ウ 商品分類3
- エ 商品分類4
- オ 商品分類5

正答率

51.9%

第 34 問

ある商品の需要予測量を、移動平均法（過去 3 期の平均）と指数平滑法（平滑化係数＝0.8）によって t 期（当期）まで計算した結果、下表のとおりとなった。この条件に基づいて計算する t+1 期（翌期）の需要予測量に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

(単位：個)

| | t-4 期 | t-3 期 | t-2 期 | t-1 期 | t 期 |
|---------------|----------|----------|----------|----------|-----|
| 実際の需要量（実績値） | 90 | 30 | 60 | 30 | 90 |
| 移動平均法による需要予測量 | 30 | 50 | 50 | 60 | 40 |
| 指数平滑法による需要予測量 | ※ | ※ | ※ | ※ | 60 |

注 表中の※印は、値の記載を省略している。

[解答群]

- ア 移動平均法によって計算すると、40 個である。
- イ 移動平均法によって計算すると、50 個である。
- ウ 移動平均法によって計算すると、66 個である。
- エ 指数平滑法によって計算すると、72 個である。
- オ 指数平滑法によって計算すると、84 個である。

正答率

50.9%

運営管理攻略に向けた学習法

令和6年度試験の結果も踏まえて、次年度以降の運営管理科目の攻略のポイントを提示していきたい。

◆テキストを読み進めることを目的にしないでほしい

運営管理に限ったことではないが、1次試験は基本知識を正しく理解・整理・定着できているかがポイントとなる。陥りやすいものとして、その日の学習の目的が「テキストを○ページ読み進める」となってしまふことである。

重要なのはテキストを読み進めることではなく、内容を正しく理解し暗記することであり、自分にとって暗記を進めやすい学習法を確立してほしい。

◆問題演習に注力して、知識を使える状態にしてほしい

1次試験においてよくあることであるが、「なんとなく知っているけど、思い出せない」ということが致命的となることが多い。なぜならば、基本知識で対応できる問題は、いわゆるAランク、Bランク問題が多く、これらの問題を確実に正答することが試験合格においては不可欠なためである。

よって、過去問演習や答練を中心に、問題への対応力を高めてほしい。特に、過去問については同じような問題が繰り返し問われることも多く、問われた論点については欠かさずに整理してほしい。

中小企業診断士試験
出る順診断士令和6年1次本試験解説
運営管理

(NL25008)

